



発行者兼編集者  
 鵜戸神宮  
 社務所  
 印刷所  
 西日本印刷



ごあいさつ

宮司長 友安 美

麦秋の候を迎え氏子、崇敬者の皆様方には、愈々ご清適にておすごしの事と存じ上げます。

当神宮でも昨年は天皇陛下御即位五十年記念事業としての楼門建立、境内の整備も一段落し教化広報紙としての社報「鵜戸」も早や復刊三号を皆様方におとどけすることの出来まことは、大神様と皆様方のご縁が愈々強い絆で結ばれつつある事と喜びに耐えないところであります。

神宮では現在、約六千万円の予算にて鵜戸稲荷神社のご改修と社宅の建設とに着手して居り、今年の十月中には竣工の予定にて、工事を進めている次第であります、神々しく真新しいご社殿に

お参りいただけるのも間もない事と存じて居ります。

一方、教化事業、文化事業としての鵜戸神宮古文書の整理、編纂、鵜戸神宮史の刊行、又、新しい神楽等をも考案して、氏子崇敬者の皆様方に一段と親しみのいただけるお社にと、努力して居る次第であります。

また、恒例の御神幸祭も目前に迫り、職員一同力を合わせ日々ご奉仕申し上げて居りますが、皆様方におかれましては益々のお栄えをお祈り申し上げる次第であります。

〔写真は例大祭に〕

奉納の浦安の舞

# 例大祭 齋行

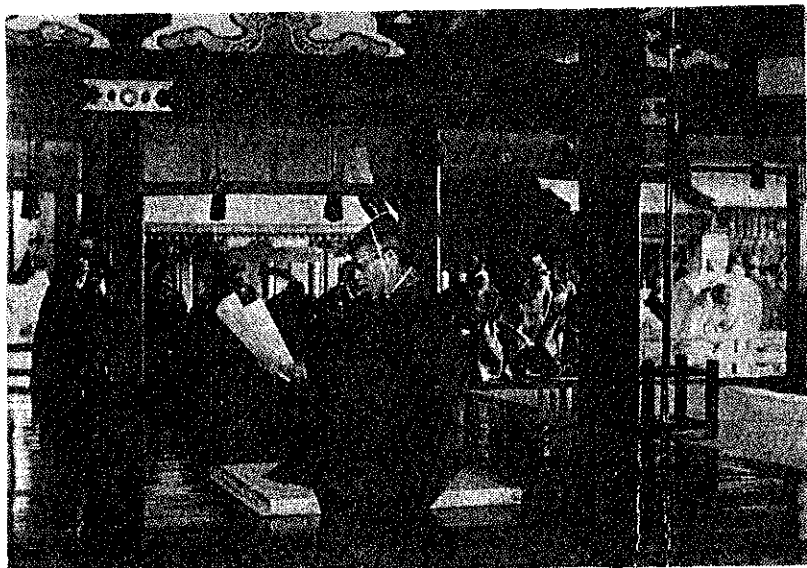
昭和五十一年二月一日

前日までの小雨まじりの天候とは違い、曇一つない青天の下、暖かい日差しをあびて去る二月一日午前十一時、神社本庁より、献幣使杉田清氏（県神社庁副庁長）を迎え、当神宮例大祭は厳かに斎行された。

また祭典には責任役員、氏子、崇敬者総代をはじめ英彦山神宮、鹿兒島神宮、霧島神宮、照国神社、松原神社、都農神社、青島神社各宮司、敬神婦人会、官公衙代表等約百二十名の参列があった。

一方儀式殿前広場では、早朝八時より神賑行事の奉納四半の大会が催され、熊本、大分、佐賀等から特別参加の人達も交え、約五百名が参加して四半的の腕を競い和やかな雰囲気につつまれた。

また毎年御神饌米を奉納する風田部落四十数名、下中村部落二十数名が今年も例祭に参列して餅米を奉納した。その後儀式殿に参籠して、恒例の農作占いの歌合戦を行った。両部落とも勝負はつけがたく夜の更けるの



一献幣使祭詞奏上一

当神宮例大祭の神賑行事の一つである奉納剣道大会は、二月八日午前八時半より開催された。この日はあいにく朝から雨で小学生は吹毛井公民館、中学生以上は鶴戸中学校体育館で開催され、雨の上がつた屋から神宮儀式殿前広場に会場を移した。

## 奉納 剣道大会

当神宮の豊玄なる神域は、剣法発祥の聖地であり、御祭神「ウガヤフキアエズノ命」の御神徳にあやからんと、昔から多くの修験者が当神宮御霊廟内に参籠祈請した。御霊験あらたかにして、中でも足利時代には剣法の達人と謳われた、相馬四郎義元及び愛洲移香が御神示を受けて遂に剣法の奥儀を悟った。剣法の根源である「念流」を相馬四郎義元が、また「陰流」は愛洲移香が創始したと伝えられ、この道を修めんとする剣士が雲の如く集まったと伝えられている。

この剣法発祥の聖地としての由緒があるところから、昭和二十八年に剣法発祥鶴戸山頭彰剣道大会と名付け、第一回大会が開催された。

- 高校、一般の団体一七二チーム
- 一二〇四名、女子個人一四四名、役員を含め総勢一六〇〇名が参加した。あいにくの小雨まじりの天候で吹毛井公民館、鶴戸中学校体育館と分散して開会式が行なわれたが、雨が上がった昼からは、時折薄日の射す儀式殿前広場で熱戦が展開された。
- 広場を八会場に分け日頃の術を競い合う剣士等を見物する人々は、ちょうど日曜日と重なったため広場にはいりきれない程となった。「お面有り」「小手有り」「胴有り」と審判の判定毎に味方の観衆より上る歓声拍手は夕方まで続き、まことに盛大なる大会であった。各部の優勝は次の通りである。
- 『男子』
  - (小学校) 松本道場(延岡)
  - (中学校) 興武館(延岡)
  - (高校) 宮崎中央高校
  - (大学、一般) 宮崎南警察署
- 『女子』
  - (小学校) 宮師久美
  - (中学校) 富永浩枝
  - (高校、一般) 川本理英子
  - (延岡春風館)

道大会が開催され選手役員約千六百人、観衆数千を集め、小、中学校、高校、大学、一般に分れ終日熱戦がくり広げられた。

も忘れるほどの熱中ぶりだった。翌朝は一同大前にて、今年の豊作を祈念した。そして日曜日の八日には、第二十四回剣法発祥鶴戸山頭彰剣

## 奉納 四半的の大会

日南市郡四半的の会事務局長 谷口忠章

鶴戸神宮例大祭当日、奉納の、日南市郡四半的の大会は、昭和四十七年に第一回大会が開催され今回は早くも五回目を迎えました。晴れたる青空の下、例年通り二月一日午前八時、儀式殿前広場にて一〇一チーム五〇五人が参加、焼酎を飲み、弁当を広げながら賑やかに進められました。

今回は特に熊本県天草郡新和町の皆さん、それに県北の木城町、門川町、川南町、清武町の方々の参加があり、大会はより一そこの盛り上がりを見せました。

日南市郡四半的の会会長衛藤正信氏が故佐藤政男氏から口伝された四半的の由来を述べてみますと、それは、今から約四百五十年位前、肥前藩の伊東氏（五万三千石）と薩摩藩の島津氏との「小越の合戦」の戦いに源を發します。この時の攻撃の軍の内に、馬引、人足や加勢の附近の村の農民が竹作りの即製の半弓を持って、「ヤア／＼ソラアタルワ」と大声にて矢さけびを揚げ、敵勢を圧迫し勝利に寄



一四半的の大会一

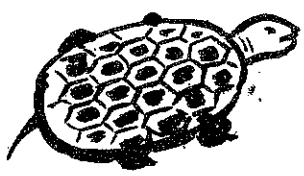
## 歌合戦

毎年御神饌米を奉納する日南市風田部落、南郷町下中村部落の両地区の区長をはじめ、数十名が今年も二月一日の例祭に参列し、餅米を奉納、のち儀式殿に参籠し恒例の農作占いの歌合戦を開催した。

この歌合戦は、三百年以上も前からの伝承行事であり、毎年欠かす事がない程、両地区に浸透している行事である。参加する農民は焼酎を飲みながら、机に並んだ魚やエビなど各種の料理を食べつつ、交代で歌を披露する。早く歌の尽きた部落が負けになり、勝った部落は、その年豊作であると伝えられ、現在では二月一日が来るのが待遠

しく、両地区の農民にとって最も楽しみな娯楽となっている。当神宮責任役員、後藤秀男氏の話によると、両地区の水田は海岸近くで水の便が悪く、米の不作が続いた三百年前、当神宮例大祭に白米数俵を献納して豊作を祈願した。風田、下中村両部落の庄屋が兄弟だったことで話がまとまったものらしい。両部落の神宮への参拝の道のりは遠く、馬に米俵を積み、海岸沿いの山道を「鶴戸さん参り」の歌を唄いながら参拝してきた。神宮に着いた両部落の人々は白米を神前に献納したのち、その日の夕刻より社務所にて互いに焼酎を飲み、農作業の話をしながら余興として歌合戦が始まったと言ったことがその始源であるらしい。

馬道は、現在も当社務所裏の山手の細道として残っており当時を偲ばせる遺産である。今年の歌合戦は両部落から数十名が参加。「本日は昔からつづいている歌合戦の日です。今年の豊作と皆さんの健康を祈念して、大いに飲み、大いに唄いましょう。」と区長があいさつ、乾杯をしたあと歌合戦がはじまった。机に並べられた各種の料理を食べながら酒盛りがはじまると、しばらくして「さあ唄お



例大祭に参列して読める

迷々亭主人

青空に聳えて見ゆる楼門の

色映えわたる鵜戸の山なみ

乙姫の昔もかくやと鵜戸の空

朱の玉垣海にうつりて

(注)迷々亭主人は霧島神宮司小久保光雄氏

くやしかった雨

(奉納剣道大会に参加して)

鵜戸小六年 三輪 義郎

二月八日(日曜日)は、ぼくが待ちに待った剣道の試合の日だった。その日はあいにく朝から雨が降っていて剣道大会があるのかどうか少し心配だったが、あるということだった。でも神宮の広場は使えないというので小学生は吹毛井公民館に、中学生以上は鵜戸中学校体育館に集合しなさいといわれ、ぼくたちは公民館に急いで行った。行くまえにお母さんが、「がんばってね。」と励ましてくれた。ぼくは練習不足なのでおちつかなかったが、公民館はい

背の高さだ。ぼくは敗けてもいいから正々堂々と戦おうと考えた。

「はじめ」の言葉を聞いて気合をいれた。まず相手の動きを見た。メンにスキがあったので打った。当たったが、いつも先生にいわれているように手が伸びていなかった。これは失敗した。ぼくが後ずさりしたら相手も足を打ってきた。何と身の軽い相手だろう。一本取られてしまった。ぼくは少しきんちようしていた。やはり練習不足だ。どうしても一本取ってやろうと思っ二本目にかかったが気持ちだけがききぼり、どこを打っても命中せず、相手の方が強かったのかとうとう敗れてしまった。くやしい気持ちだっ

社務日誌抄

- 一月一日 歳旦祭
一月三日 元始祭
一月四日 中川ヒューム管酒井工場長他三十名参拜
一月二一日 国の礎一八〇名参拜
一月一四日 菅崎宮宮司田村克喜氏来宮
二月一日 例大祭
第五回奉納日南市郡四半の大会
広島東洋カープ必勝祈願に来宮
二月八日 第二十四回剣法苑祥鵜戸山顕彰剣道大会
二月二一日 紀元祭
二月二三日 日本郷友連盟会長有来会長夫妻参拜
二月二一日 山形県神社庁有野勲氏他一三〇名参拜
二月二六日 外務省参事官浅尾新二郎氏参拜
二月二六日 埼玉県神社庁入間郡市連合会四八〇名参拜
三月八日 鳥根県神社庁瀧摩郡支部参拜
三月一八日 皇学館高等学校三六〇名参拜
四月一日 稲荷神社地鎮祭
四月二九日 天長祭
五月五日 節句祭御衣祭
五月七日 大分県神社庁庁長宮本末彦氏参拜
五月二二日 最高裁判所判事岡原昌男氏来宮



稲荷神社造営工事

はじまる

昭和五十年は、天皇陛下御即位五十年の佳年にあたり、当神宮でも記念事業として楼門等、境内整備事業を完成させた。ところが神符守札庫、宝物庫の隣接地に鎮座の末社稲荷神社だけが取り残されたように、見すばらしさが目立っていた。この稲荷神社は木造瓦葺にて七坪余りの社殿である。創建年月は不詳だが安政四年に改築、明治二年に修復との記録が残っている。ために社殿は老朽化し、加えて白蟻による被害も生じてきたため、当神宮では役員会の決定に従い五十一年度事業として造営に着手することになった。去る四月一日、宮司以下職員奉仕の下、盛大な起工式が執り行われた。今回造営の稲荷神社は鉄筋コンクリート銅板葺き流降り、建坪は二・九坪である。社殿の様式は京都の伏見稲荷大社の造



— 進行中の造営工事 —

鵜戸神宮造営建設工事一覽

Table with 4 columns: 年月日 (Date), 造営工事 (Construction Work), 建坪 (Area), and 備考 (Remarks). It lists various construction projects from 1925 to 1951, including shrine renovations, new buildings, and land purchases.



# 鵜戸山散歩 (3)

## — 吾平山上陵 —

今回の鵜戸山散歩は、当神宮の祭神鵜鷺草葺不合尊を葬め奉る吾平山上陵（アヒラノヤマノウエノミササギ）を紹介したいと思う。日々全国よりの参拝者が訪れる当神宮にあって、余り人目につきにくい存在であるが、文化的にもあるいは信仰上も価値があると言わねばならぬのが本御陵であろう。

日向国は、天孫降臨の聖地、日向三代の都の置かれた古都である。県内各地には、神話や伝説等多々あるが、古墳は大小の約五〇〇基（県の文化財指定約三〇〇〇基）が点在している。古墳とは弥生時代から奈良時代までごろの間、高く土盛りした高塚式の墳墓で、その封土の形により円墳、方墳、前方後円墳などに分けられるが、土を盛りあげない横穴や地下式のものもある。特に前方後円墳は、日本独自の形式で、応神天皇や仁徳天皇の御陵のように雄大なものである。

また封土の土どめ等のために埴輪も作られ、副葬品として、鏡、剣、玉や土器、装身具等も一揃に納められたのである。

さて、当神宮境内の最高峰、速日峰の頂（標高一四〇メートル）に鎮まる吾平山上陵は、前方後円墳で、明治二十八年には、県内でも可愛山陵伝説地（東臼杵郡北川町）、男狭穂塚、女狭穂塚（西都市西都原）などと並

び、宮内庁より御陵墓参考地に指定され、現在陵墓守部により管理されている。吾平山上陵には、神宮参道より左に折れ、上の御門をくぐり、稲荷神社横から苔むした石段を約三百五十メートル程登る道のを進まねばならない。昼なお暗き坂道を登りつめると、正面に玉垣をめぐらした御陵が見える。（写真）

当地方の郷土史家、平部囃南



が、文献や見聞、古老の口碑などを蒐集し、考証を加えた「日向地誌（全五十六巻）」には、「速日峯陵」について、「鵜戸山ノ最高嶺ニアリ。山嶺ノ地形隆起シ、円形ヲナセシ所ニツアリ。東西相距ル四五間ニ過ス。漫然トシテ之ヲ見レバ其古陵タルコトヲ識ルモノナシト雖モ、之ヲ熱覽スレハ其山陵タルコト必セリ」と記して、本御陵が古い形式の古墳であり、前方後円墳であることを指摘している。

また、「延喜式諸陵寮」（延長十五年十一月成）には「日向吾平山上陵、彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊、在日向国、無陵戸」とあり、当神宮のご祭神が、日向国のご陵に葬られていると記されているが、この点は古来鹿児島県吾平町の吾平山陵との間で、その「本家」をめぐる諸説いろいろみだれているところである。しかしながら、歴史学上の問題ではなく、従来より鵜鷺草葺不合尊のご陵と伝えられ、当地方の人々より尊重され、信仰されてきた本御陵は重視せねばならないし、文化遺産として後世に、より完全なものとして受け継いでいかなければならない。

（本部）

編
集
後
記

日南地方はここ数日來梅雨に入った様な天気で、毎日うっとうしい日が続いています。

本号は、特に例大祭神賑行事特集号とし、剣道大会、四半の大会、歌合戦に焦点を合わせました。正月七日間以外でうどさんに数多くお詣りのあるのが、この例大祭当日で取材もなかなか容易ではありませんでした。歌合戦も西部落の古老達の口伝をようやくまとめたもので、詳しく伝統の内容を知っている人はいないようです。どこの方でもそうですが、伝統行事、伝統芸能が後継者不足から長く埋もれたままになっています。これらの数々の古き良き伝統は、我々若者等が受継いでりっぱに育てて行かなくてはならないと思います。

いよいよ夏がやってきます。社報「鵜戸」編集部も炎天下、取材活動に精を出し、次号は今回よりもりっぱな紙面を作成しようと考えております。時節柄皆様方のご健康をお祈り申し上げます。（谷口）